



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第76号

2010.5.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥龍山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- 『雲月のたから』を販売中
- NPO 法人 西中国山地自然史研究会総会を開催
- スタッフ紹介

活動報告

- 自然再生勉強会
- 山焼き後の植物観察会
- カスミサンショウウオの産卵調査

観察会案内

- 大潰山の春植物観察会
- ブナ林の野鳥観察会

お知らせ

●『雲月のたから』を販売中

雲月小学校の児童が撮影した雲月山の四季があふれる写真集が完成しました。高原の自然館でも販売を始めました。ぜひお買い求めください。

写真集『雲月のたから』
定価：2,000円

●NPO 法人 西中国山地自然史研究会総会を開催します

NPO 法人となり、研究会のさらなる活動の充実を考え、観察会や調査、会員のことを検討する大切な総会です。

開催日時：2010年5月22日（土）13:00～
開催場所：山麓庵（高原の自然館となり）
総会参加資格：西中国山地自然史研究会正会員
※総会終了後、総会参加者で霧ヶ谷湿原ミニ観察会を行います。お楽しみに！

●スタッフ紹介

2010年度の高原の自然館のスタッフを紹介します。今年1年間は、観察会でおなじみの内藤先生が加わり、4名でのスタッフ体制となりました。自然に関する疑問や質問などありましたら、お気軽に声をおかけ下さい。自然館のカウンターにてお待ちしております。

学芸員：白川勝信
研究員：内藤順一
事務員：柳崎誠子、河野弥生

観 察 会 報 告

●自然再生勉強会

開催日時:2010年4月24日(土)9:30

講師:岩見潤治・上野吉雄・暮町昌保・佐久間智子・
白川勝信・内藤順一・和田秀次

2007年から始まった、広島県による自然再生事業の工事が完了しました。この機会に自然再生事業の全容や現地の様子、湿原の動植物についての勉強会を開催しました。47名の参加者のみなさんと、高原の自然館を出発し、水口谷湿原を通り、一旦道路にでて霧ヶ谷湿原のオープニングセレモニーに参加し、霧ヶ谷湿原の木道を歩くというコースで歩きました。昆虫担当の岩見先生は、湿地になっているところや、水路にザルをいれ、水中にすむいきものを紹介してくださいました。中でもサナエトンボとオニヤンマのヤゴが印象的でした。両生類・魚類担当の内藤先生からは、カスミサンショウウオの卵塊やヤマアカガエルのオタマジャクシを教えていただいたり、シマヘビやジムグリの赤ちゃんをつかまえ、生態を教えていただきました。ヘビにさわっているときの子どもたちの瞳は真剣で、きらきらと輝いていました。動物担当の上野先生からは、湿原の上を飛ぶハイタカを教えていただきました。植物担当の暮町先生、佐久間先生、和田先生からは、歩きながら見ることでできた、植物の名前や生態を教えてくださいました。高原の自然館の白川学芸員は、工事による場所の変化やいきものの生息の変化など、自然再生事業全体のお話や、湿原の成り立ちやそこにすむいきものの生態など多くのことを説明しました。途中で雨が降り、大変寒い中での勉強会となりましたが、それぞれの専門の先生から、興味深いお話が聞けたり、寒い中だからこそ春を感じることができたりと、湿原の恵みを大いに体感しました。途中で参加したオープニングセレモニーでは、霧ヶ谷湿原の入り口のテープカットも行われ、完成した喜びをみんなで分かち合いました。様々な方に楽しんでもらえる場所、さらには湿原や自然について考えたり感じたりできる場所であり続けるよう、みんなで知恵と力を出し合い。この霧ヶ谷湿原を見守っていきたいと願います。[このやよい]



水口谷湿原へいく道から、急にお天気が崩れ、カサやカップが必要となった。



霧ヶ谷湿原の観察路入り口のササのなかから、内藤先生が見つけた、シマヘビの幼蛇。



霧ヶ谷湿原の完成を祝って、テープカット。大きな拍手がわきあがった



「見た目には何もいないかのように見えますが、実は水の中には多くのいきものがあるんですよ」と岩見先生。



水辺をザルですくってみると、ヤゴを発見。大きい方がオニヤンマ。小さい方がサナエトンボ。



主水路の上流では、堰をつくり、土砂の流出を防ぐ工夫がされている。工事の方法などを白川学芸員が説明中。

【みなさんの印象に残った物】

「工事完了したばかりの湿原をたくさんの方が、歩いていること。」「寒かったです。」「木道を歩いたこと」「ジムグリ。幼蛇の目撃」「シマヘビ、ジムグリ(2)」「湿原再生への思い」「自然再生事業で砂の流出がとまること。」「遊歩道(木道)の整備」「霧ヶ谷湿原の中を歩けたこと」「春の野を歩けたこと。すばらしかった。」「ジムグリを無邪気にさわる子どもたち。」「オープニングセレモニー」「カスミサンショウウオの卵塊(2)」「自然再生が少しずつ始まっている。」「自然再生」「ヤマカガシなど実物を見ることができたこと。」「ヘビの幼生(2)」「いろんな生物にあったこと」「湿原再生をとりの比較できて良かった。」「カスミサンショウウオ」「ヘビの幼生の美しさ。」「来る度に変化している湿原の姿。それと寒さ。」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「自然が好きな人が沢山来る場所であり続けるようになんとかしたい。」「再生事業の工事を感じた」「最初の雨が寒かったが、後半は気持ちよい時間を、子どもともども楽しめた。」「寒い日でしたが、いろいろ生き物が観察できてよかったです。」「楽しい観察会でした。(2)」「講師陣が揃っていたため、多くのことが学べた。」「寒かったけれど、春を感じました。」「いろいろと専門の先生方の説明が聞けたのでよかった。」「再生工事を始める前から来ていたので、完成したことに感動しました。久々に豊かな自然に囲まれて癒されました。」「新鮮なかんじがした。」「これからもたびたび見に来たいと思いました。」「霧ヶ谷のこれからが大変かな?多少の手入れが必要か。」「いよいよオープン。これからが楽しみ。」「湿原の観察会は楽しかった。」「それぞれの分野の専門の方による分かりやすい説明が印象に残った。」「四季を通じて来てみたい」「天気はどうなるかと思いましたが、晴れて良かった。」「大変良かった。(2)」「悪天候の中、スタッフの方々の気遣いを感じよかったです。」「湿原再生。今後が楽しみ。」「コースが長いので、見所がたくさんある。」

観 察 会 報 告

●山焼き後の植物観察会

開催日時:2010年4月25日(日)9:30

講師:佐久間智子・和田秀次

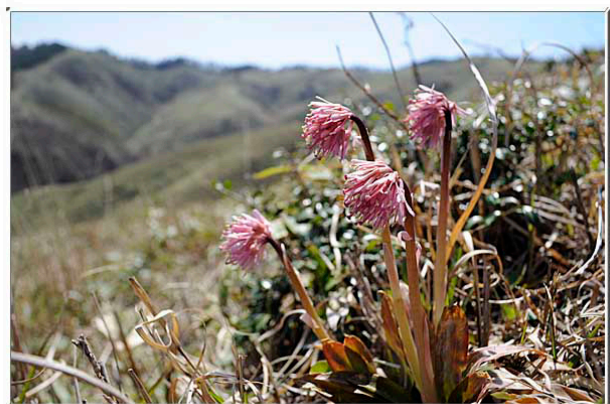
早朝はマイナスの冷え込みでしたが、観察会の始まる頃には太陽も高く、青空で気持ちのいい雲月山の植物観察会の始まりとなりました。あいにく今年の山焼きは中止になりましたが、人が手を加えることで維持される草原の重要性について、まわりの山々を見ながら、和田先生に説明していただきました。広島県で火入れがされている雲月山・千町原・深入山の植物の種類について佐久間先生から、今回は調査結果の初資料について説明していただき、貴重な植物が生息する環境だということに改めて実感できました。そして、登山の始まりです。まずヤマヤナギの雄花・雌花、キジムシロ、センボンヤリ。草丈の低いこの時期に一生懸命咲いている花。オトコヨモギ・リュウノウギクの新芽を観察しました。以前参加した山焼きの経験談などを話しながら、稜線づたいに散策しました。タイムスケジュール通りに山頂で昼食をとることができました。放牧準備の電柵用の杭が所々においてありました。牛が放牧されることで、畑の草がびっしり生えてきている所、緑の色が違いました。ショウジョウバカマがずら〜と咲いている所はショウジョウバカマの小道と名付けて歩き、ニオイタチツボスミレのにおいをかいだり、ゆっくり山歩きを楽しんだ観察会でした。[やなぎざきのみこ]



佐久間先生から初公開の資料を使って、説明があった。



晴天に恵まれ、いざ出発！



いろいろな色のショウジョウバカマ。



山肌の横線についての説明。たたら製鉄かんな流しの跡を見る。



車道の脇にも様々な植物があった。



「三本でもセンボンヤリ」(和田先生)

【みなさんの印象に残った物】

「ショウジョウバカマ，たくさん見られました。スミレ。」「天気は良くて，余り寒くなくともよかった。」「イカリソウに久々に会えた。」「草原のありかたについて。」「ふつう見逃して自然にゆっくり会えたという感。」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「とてもいいお天気で，山歩きには最高でした。和田先生，佐久間先生の説明，大変楽しく良かったです。」「気持ちよく晴れて，観察に最高でした。」「先生，そのほかの方もとても親切でした。」「天気が良くて，少人数で説明がよく聞けてよかった。」「来る度に新しいのに出会えたり，発見があったり楽しいです。」「鉋流しの名残を今後どのようにして，保持していくのか。帰化植物についてはどうするのか，考えました。」

※写真提供：和田秀次さん



昼食後山頂で記念撮影。

観 察 会 報 告

●カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時:2010年4月29日(木)9:30

講師:内藤順一

風が冷たい朝でしたが、18名の参加者が高原の自然館に集合しました。毎年行われている両生類の産卵調査です。水辺のいきものの調査ということで、3歳から小学校中学年まで7名と、子供の参加も多くありました。まず高原の自然館内のパネル展示や模型を見ながら、内藤先生よりサンショウウオの生態や生息環境の説明を聞きました。サンショウウオにも様々な種類があり、芸北では4種類が生息しているとのことでした。参加者から質問も飛び出し、現地に行くのが楽しみになってきました。現地へ行く途中、道路沿いのコンクリートマスの中にカスミサンショウウオの卵塊があるというので立ち寄り観察しました。初参加者は実物を見ることができ、びっくりしながらも喜んでいました。二川キャンプ場に車を止め、4班に分かれて霧ヶ谷湿原の両生類の産卵調査の開始です。工事により設置した水路以外にも、水がたまり自然に湿地になっているところを、注意深く観察します。卵や幼生、成体を見つけたら、場所や数を記録します。「あ、こっちに卵があるよー」「これはもうオタマジャクシになっているね」などと話しながら、どんどん進みます。カスミサンショウウオ、ヤマアカガエル、アマガエルなどの両生類以外にも、カナヘビ・シマヘビ・オオコオイムシ・トビケラ・ヤゴ・オオルリ・オオタカなど色々な種類のいきものを見ることができました。また、ハルザキヤマガラシの花や、ヒメザゼンソウやバイケイソウ、ハンカイソウの葉を見つけたりもしました。山際に咲いているコブシがとてもきれいでした。時間になったので、調査地からひきあげ、班ごとの報告をしました。カスミサンショウウオの卵塊を多く確認した班、ヤマアカガエルの卵塊や幼生を多く確認した班と、場所によっての結果があらわれました。最後に内藤先生にまとめをしていただき、自然再生事業の工事によって、湿地にすむいきものは増えているということが分かりました。寒い中でしたが、実際にいきものに触れることもできる楽しい観察会となりました。[このやよい]



高原の自然館内のパネルでサンショウウオの分布を説明する内藤先生。



「カスミサンショウウオの赤ちゃんって、こんな形なんだねー。あ、目がどこかわかるよ！」



調査地の霧ヶ谷湿原内へと進む。



GPSで場所をおとす「ポイント屋」さん、数や種類を確認して報告する「報告係」さん、データを書き込む「記入係」さんと連携をとる。



カスミサンショウウオの卵のうを見つけた。透明なので、中の様子がよくわかる。じっくり観察。



道路に近く、流れのない水路にヤマアカガエルの卵塊がたくさん見られた。



アマガエルの成体。きれいな緑色だった。

【みなさんの印象に残った物】

「カエルの卵をみたことです」「オオコオイムシ」「ヤマアカガエルのあかちゃんをみたこと」「カスミサンショウウオの卵を見つけたこと。いろいろな動物が見れたこと（ヘビ・オオコオイムシ・オオタカなど）」「カエルより大きなサンショウウオの卵です。（オオタカ・シマヘビ）」「カスミサンショウウオの卵（2）」「カスミ卵塊を自分で見つけたこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「卵を触ったことが楽しかったです（2）」「また行きたいです。」「いろいろな動物がみれておもしろかった」「もりだくさんで楽しかったです。調査に参加できるのもよかったです。」「生物・植物を身近で感じられて楽しかったです」「カスミサンショウウオの卵が見つかってよかったです。」「ヤブこぎ大変だったが楽しかった。」

※写真提供：佐久間智子さん

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 大湊山の春植物観察会

開催日時：2010年5月15日(土) 9:30

集合場所：大佐スキー場駐車場

講師：暮町昌保・佐久間智子

準備：基本セット・弁当

定員数：30名

参加費：一般 = 300円

賛助会員 = 100円

正会員・中学生以下 = 無料

花を咲かせているスミレ類、ツツジ類など様々な植物を観察しながら春の大湊山に登山します。上りは緩やかですが、下りは少し急な所がありますので滑りにくい靴でお越し下さい。山頂付近の見晴らしがよく、鳥の鳴き声もきこえてくるさわやかな観察会です。



● ブナ林の野鳥観察会

開催日時：2010年5月23日(日) 5:00

集合場所：臥竜山雪霊水前

講師：上野吉雄・暮町昌保

準備：基本セット、双眼鏡

定員数：30名

参加費：一般 = 300円

賛助会員 = 100円

正会員・中学生以下 = 無料

毎年人気の野鳥観察会です。早朝のブナ林だからこそ観察できる鳥たちが、姿を見せたり、鳴き声を聞かせてくれます。上野先生の解説も必見です。山の上は天気が変わりやすく、早朝はまだ冷える時期です。防寒をしっかりとってお越し下さい。



新年度を迎え、自然館の引っ越しをしたりとばたばたしているうちに、5月になりました。今年は寒暖の差が大きいように思います。農家にとっては心配な毎日でしょう。とはいえ、花が咲き始めたり、いぎものの姿も見かけることが多くなり、楽しみが増えました。4月は雨に濡れるタムシバの白がとても印象的でした。さて、今月はどんなステキに出会えるのか・・・おっと、タンポポ調査もがんばりますよ！みなさんも、いかがですか？(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info